

※注意：このシートは横浜市の
ホームページ等で公開されます。

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）②

支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	横浜駅周辺大改造計画	横浜駅周辺	平成 21 年	<p><市街地開発、バリアフリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 横浜駅の利便性向上のために、高齢者と非健常者に焦点を当てて、これらの方々にアンケートを実施した。 ● 学生による実地検証を行い、案内板や表示、段差等の不具合が実際にどこにあるかを示し改善案を提示した。 ● 横浜駅全体の課題を整理し、改善点について提案した。
	災害時における観光者、外国人、障害者の避難誘導方法に関する調査研究	神奈川県 箱根町をケーススタディー	平成 22 年	<p>神奈川県知事賞 受賞論文 <防災、バリアフリー></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有事・災害時の避難計画は地域住民を対象としており観光客は含まれない。 ● 観光地では観光客は匿名性を持っている。 ● 災害時に高齢者や障害を持つ観光者をいかに安全に誘導し、その後のケアの方策に関し調査研究を行った。
	横浜港におけるクルーズ客船動向調査	横浜港	平成 23 年	<ul style="list-style-type: none"> ● クルーズ客船が大型化されるに伴い、横浜港のベイブリッジが通過できないことがわかってきた。 ● そこでクルーズ客船の動向予測と世界における横浜港の相対的な魅力と位置づけを明らかにした。 ● その上で、大型客船受け入れのための港湾計画について提案を行った。
	横浜港におけるクルーズ客船の来港予測	横浜港	平成 26 年	<p><まちづくり、プランづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 横浜港港湾計画の見直しに際して、大型客船クルーズ船がベイブリッジを通過できないことをデータに基づき指摘した。 ● 近年のクルーズ船の就航状況や建造状況から、横浜港への寄港の需要予測を行った。
<p>自身の考えるコーディネーターの役割とまちづくりのポイント（500文字以内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 2 年よりハワイ大学観光産業学部の客員教授として招かれ、ハワイ観光の分析と研究を進める一方、同年北マリナ連邦（サイパン島など）の観光マスタープラン策定に携わった。 ● 平成 6 年からは、外務省、JICA の施策による島嶼地域の観光振興政策に関わり、カリブ海諸国（CARICOM）と中南部太平洋地域諸国の観光政策コーディネータを 22 年までの 17 年間務めた。 ● 同じく平成 6 年からはアメリカ国防省より東アジア地域の平和を維持するためのリーダーに選出され、15 年間携わった。 ● 平成 8 年からはアメリカ地域学会の観光部門の座長を務め、アメリカ国内の地域観光に関して調査・分析と提言等を行った。 ● ダイナミックに経済が変遷する中で、ひとつの「まち」が如何に生き残り持続していくかに関して、国際的な情報も交えて「次にあなたが何をすべきか」を大切にしたい。 				
<p>必要に応じて資料を A4 判 1 ページまで添付できます。</p>				

主な業績

名桜大学大学院 観光環境専攻 学部長/教授 (平成6年4月1日-21年3月31日)
横浜商科大学 貿易・観光学科 教授 (平成21年4月1日-27年3月31日)
内閣府 地方創生シニアマネージャーとして山梨県丹波山村に政策顧問として派遣 (平成27年4月-29年3月)
NPO 法人 バリアフリーネットワーク会議 会長 (平成29年4月-平成31年3月)
School of Tourism Industry Management, University of Hawai'i at Manoa Visiting Professor
(平成3年-4年3月まで)

Regional Science Institution Chairman of Tourism Session (平成8年-10年まで)

平成21年9月 成都大学(中国 四川省) 客員教授(現在に至る)
棗庄工科大学(中国 山東省) 客員教授(現在に至る)
平成22年8月 臨沂大学(中国 山東省) 客員教授(現在に至る)
平成23年8月 棗庄学院(中国 山東省) 客員教授(現在に至る)

<受賞>

平成9年 3月 “人材育成の考え方 —沖繩の観光産業をケースとして—”
国連 国際観光機構(財)アジア太平洋観光交流センター 入選表彰
21年 3月 「福祉のまちづくり推進功労者」 沖繩県知事賞受賞
22年 10月 「災害時における観光者、外国人、障害者の避難誘導方法に関する調査研究」
神奈川県知事賞
23年 8月 「那覇市観光功労者」 沖繩県那覇市

<研究論文等> 合計 130編 (著書 22編、学術論文 67編(内 査読論文 20編)、その他 41編)

<主な著書>

現代観光用語辞典 昭和59年1月 (財)日本交通公社
沖繩経済要覧(英文) 平成3年6月 (財)りゅうぎん国際化振興財団
新経営学要論 平成5年2月 中央経済社
現代観光総論 平成7年3月 学文社
沖繩観光 平成6年10月 ボーダーインク
観光事典 平成7年3月 日本観光協会
環太平洋地域における国際観光 平成7年11月 嵯峨野書院
観光学辞典 平成9年12月 同文館
観光振興論 平成10年11月 税務経理協会
日本山岳事典 平成16年4月 三省堂
未来につながる地方創生 平成26年10月 日経BP
そらくる 11 平成30年6月 バリアフリーネットワーク会議
Accessible Tour Okinawa 平成30年9月 バリアフリーネットワーク会議

<主な国際活動>

「Northern Mariana Resort Master Plan Project」 Mariana visitors Bureau Executive (H2-H7年)
「Executive Development Institute for Tourism」 University of Hawai'i at Manoa Director (H2-H4年)
外務省 CARICOM カリブ海諸国連合 観光人材育成コーディネータ Chairman (H6-H22年)
米国国防省(Pentagon) Civic Reader (Air Force, Navy) Member (H6-H20年)
米国地域学会 Regional Science Institution Chairman(H8-H10年)
外務省 中南部太平洋諸国 観光人材育成事業 Chairman (H10-H22年)